

令和2年度 丹のたね 事業報告

丹のたねは、丹波市笛路地区を中心に中山間地域の里山資源を有効活用し、環境保全をしつつ里山の総合的な価値を高める活動を創出・継続していくことで里山や中山間の課題解決に貢献することを目的としています。

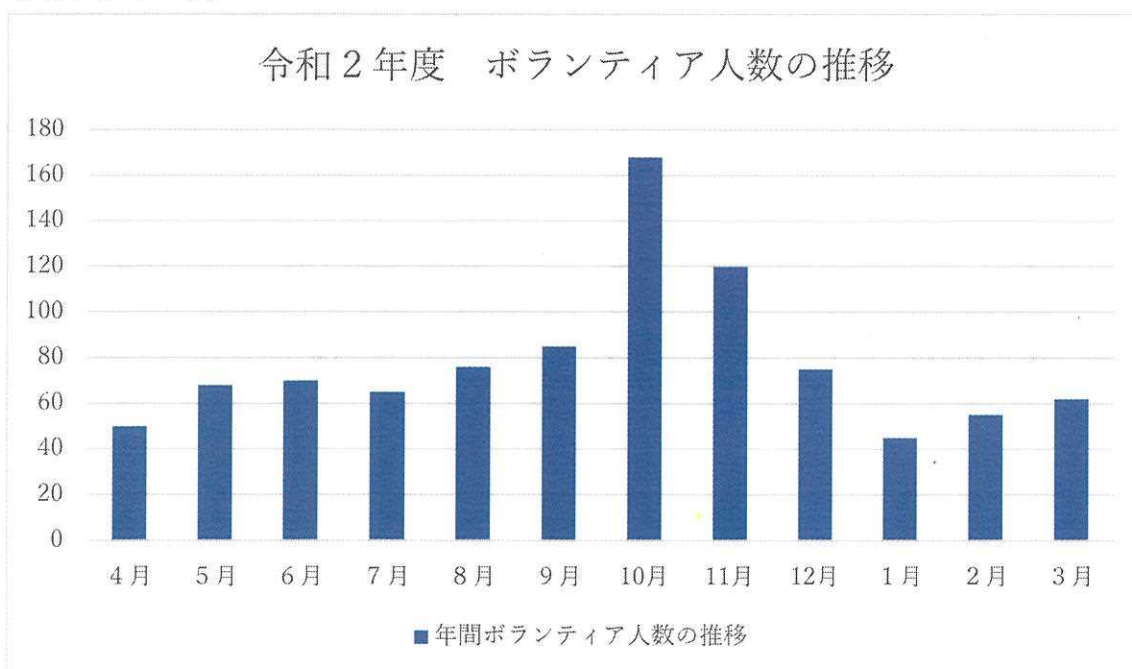
今年度は新型コロナウイルスの脅威により例年行っているイベント各種をほぼ中止せざる得なくなりましたが、2019年から里山ようちえんふえっこの活動が幼児クラスを開設したことにより常時行っている事業となり、今までイベントなどの単発事業から日常活動へと移行したことは大きな成果だったと思います。立ち上げた事業は、もちろん多くの課題と向き合いながら進めています。時間をかけてゆっくと育てていくことで地域に合ったものにしていきたいです。

今年度の事業

- ・里山ようちえん ふえっこ ⇒少人数で、幼児クラス継続、親子クラス継続、芸術クラス試験的に運営
- ・里山研修 ⇒新型コロナウイルスの社会的混乱ため中止
- ・ナチュラルキャンプ 2020 ⇒新型コロナウイルスの社会的混乱ため中止
- ・里山企画 里山フレンチ・里山珈琲 ⇒里山フレンチのみ開催
- ・物乞いキャンプ：里山の環境保全事業 ⇒新型コロナウイルスの社会的混乱ため中止

各月ボランティア活動人数

今年度は、例年開催していたイベント各種をほぼ全て中止し、イベントは里山企画の里山フレンチのみ開催した。常時行っている里山ようちえんふえっこ事業だけ幼児クラス、親子クラス共に1年間継続し、ボランティア人口を増やしている。



それぞれの事業報告

【里山ようちえんふえっこ】

今年度、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、活動を継続していくのに非常に苦勞しました。前例の無い混乱の中、子どもたちが少しでも安心して健全な成長のチャンスとなるような里山での活動をどれくらい出来ただろうかと振り返っています。しかし休園にすることも少なく、出来るだけ少人数で屋外、三密を避け、クライアントの方々と話し合い、相談を重ねて一年間の困難を乗り越えられたことは理事、現場の運営スタッフにとって大きな成長となったと思います。

兵庫県のパワーアップ事業に採択して頂き、子どもたちに農業だけでなく鶏の養鶏体験を創出することができました。これまで野菜や、お米の田植え、収穫をメインとしていたのが、動く動物で食育体験をすることでより子どもたちの感性を刺激し、子どもの世界観が広がったと思います。

新型コロナウイルスだけでなく、気候変動で夏の熱波、冬の寒波、台風など外で保育をしていくには課題が非常に多いです。今後、子どもたちが外で元気に走り回れる環境をどうやって守っていくかが運営課題となりそうです。

また、他事業、特に大人数でのイベントが開催できない中、ナチュラルキャンプや里山研修などが中止となり、出来ることはないかと、新たに立ち上がったのが芸術クラスです。芸術クラスでは、少人数で自然の中で自己表現活動をしていき、それぞれの個性を伸ばしていく試みとして継続しています。来年度は、本格的に始動していきたいところまで準備を進めてきました。

⇒里山ようちえんの事業報告について、詳しくは別紙①

⇒里山ようちえんふえっこ 里山食育体験②

【里山企画 2020】

日本の田舎の良さ、里山の価値を発掘・再確認する食育のイベント企画として里山企画を継続しています。今年度は、緊急事態宣言が解除されていた時期に計画していた里山フレンチのみ開催することが出来ました。畑と畑の畦道を散歩したり、食材を収穫したりして、里山のロケーションをご案内した後、丹波の食材を使って料理人に腕を振るって頂くことで食材を育てる生産者、それを調理する料理や家庭の中のお母さんに対する感謝の心を共有しました。人数は少ないですが、確実に里山を愛して下さるお客様と繋がれる機会となっています。

現地での出会いや体験を創出することがこの企画の一番大切にしていることなので、新型コロナウイルスに対する世の中の脅威がおさまらないようであれば、来年度の開催は難しいと思われませんが、出来ることを最大限実施していきたいです。

里山フレンチ

丹波にゆかりのある料理人：山本明弦氏をお呼びして、丹波の食について交流を深める里山フレンチ。会員制で人数制限はありましたが、今年も無事開催されました。例年よりも多い4日間の開催として、各日15名ずつの定員で、丹波や丹波の食・食材にかかわるゲストが集まり、交流を深め、丹波の食材を今後広げていく繋がりをもてました。この会を機に丹波に足を運ばれる方も多くなり、また農家さんの取引量も増加したとの声も聞かれます。

里山散策



屋外ブース



屋内ブース



二階ブース



縁側ブース



山本明弦氏を中心とした調理場



会員

- ・正会員 10名
- ・賛助会員 50名

会議に関する事項

- ・総会 2021年6月20日
- ・臨時理事会 2020年4月11日 内容：新型コロナウイルスの対策について。
2020年5月2日 内容：里山ようちえんふえっこの運営体制について。
2020年6月25日 内容：里山ようちえんふえっこの来年度入園者に向けた体験会について。

別紙①

2020年度 里山ようちえんふえっこ 事業報告

○幼児クラス

2019年に立ち上げた幼児クラスは2年目の活動となりました。

(保育時間) 月曜日から木曜日の9時～15時

(人数) 3歳児 3名、4歳児 5名、5歳児 1名 計9名

自然の中で、四季の変化を感じながら、少人数・異年齢で毎日活動しています。

竹岡農園の敷地を拠点とし、笛路村でお散歩や川遊びなど季節の遊びを取り入れた保育を行いました。

○親子クラス

5年目となる親子クラスは、月3回、金曜日に活動。

9組の参加で、主に0歳から2歳児の子がお母さんと一緒に参加しました。

まとめ役のお母さんを中心に、参加者でやりたい事を話し合いながら、進めていきました。

○活動内容

【春】

(入園式、種まき、泥んこ遊び、田植え、こいのぼり製作、染め物、遠足、親子散歩など)

新入園児を3名迎えての新学期となりました。在園児、新入園児ともに、環境の変化に慣れるために、拠点の広場を中心に、近くをお散歩するなどし、身近な自然に触れる事での楽しさや気付きを大切にしながら過ごしていきました。1年経験を積んだ子どもたちが、野いちごやイタドリなど自然になっていて食べられる物に気が付いて自ら取りに行くなどして関わる姿が見られました。

また地域の方の田んぼに伺い、泥んこ遊びから田植えまでを経験させてもらいました。

自然物を使った染め物作りでは、自分で使う手ぬぐいに模様を付けたり染める工程を自分達でやってみるなどの経験をしました。





【夏】

(川あそび、水遊び、ヒヨコとの触れ合い、楽

器あそび、泡や氷などの感触あそび、

夏野菜収穫、七夕製作、ボディペインティング、体験会、夕涼み会、同窓会など)

川遊びで水の感触を楽しみながら、沢登りをしたり、カニなどの生き物探しを日々楽しみました。また夏頃からヒヨコを飼い始め、触れ合いの時間を持ちながら生き物との関わり方を学んでいきました。近隣の高校との交流で、手作り楽器をプレゼントしてもらい、リモートで楽器遊びをする活動も行いました。七夕などの季節の行事も取り入れていき、夏休みには保護者も参加の夕涼み会や同窓会などを行い交流の場をもつようにしました。



【秋】

(運動会、親子遠足、うどん作り、お月見団子作り、稲刈り、栗拾い、イモ掘り、お泊まり保育など) 初めての取り組みとしては、親子遠足で黒井城登山、4歳児5歳児によるお泊まり保育を取り入れました。親子遠足では、子どもが保護者と一緒に登ることに喜びを感じながら、子どもの成長を保護者に感じてもらう機会となりました。

お泊まり保育では、1日目に自分達で五右衛門風呂の設置から、夕食作りまで行いました。日頃から、自然の中で自分で考えて遊びを作り出す事を繰り返している子どもたちなので、友達と一緒にそれぞれが協力し合いながら、できる事を見つけて取りくむ姿がみられました。夜にはキャンプファイヤー、2日目にはレクリエーション散歩を楽しみ、日頃出来ない経験をすることができました。



【冬】
 (たき火、焼きイモ、おもちつき、クリスマス会、節分、味噌作り、お別れ遠足、卒園式)
 ほぼ毎日たき火をしました。子どもが自分達です。日常的



で薪をくべてマッチを使って火を付けま
 に火を使うことで、扱い方にも慣れていきました。

おもちつきやクリスマス会などの行事は、企画や準備など、保護者にも協力してもらいながら進めていきました。

お別れ遠足(八上城)では、年少児も含めての登山でしたが、全員が登りきり、最後まで自分のリュックを持って帰ってくることが出来、達成感を味わうことができました。

卒園式では、幼児クラスとして初めての卒園児を1名送り出すこととなりました。



【年間を通しての活動】
 (アートの日)
 月に1回、講師をお招きして、絵

画や絵の具あそび、土から作る粘土あそび、魚つりづくりや隠れ家づくりなどの製作活動を取り入れる日を設けました。



(誕生日会)

1人1人の誕生日会を本人の保護者も参加してもらいた。1人ずつ主役になって、親や友達にお祝いしても大切な存在だと感じられる機会となりました。



行いまし
らうことで

(お料理の日)

月に1回、釜でご飯を炊き、お味噌汁を作るお料理の日を設けました。毎月繰り返し同じ物を作ることで、道具の扱い方や作り方が身に付いていきました。

(茶話会)

月に1回、保育士と保護者が集まって話をする茶話会を開催しました。子どもたちの日々の様子をお伝えし、保護者からはそれぞれのお子さんについて、成長したことや悩んでいることなどを共有する時間となりました。またふえっこの活動について、保育士と保護者が意見を交しながら相互理解を図る機会となりました。

○まとめ

・幼児クラスは2年目となり、子どもたちは1年経験して知っていることを繰り返していくことを楽しんでいました。また同じ活動をしていくのにも、成長した子どもたちが引っ張っていく雰囲気を感じられました。少人数であるために、友達1人1人の存在が近く、よく理解し合っている反面ぶつかり合うことも増えました。このような経験を繰り返しながら自分の思いを伝え、相手の気持ちを知っていく機会となりました。上の子が自然の中で、遊びを見つけて作り出す姿に刺激を受けながら、下の子に伝わっていくという異年齢ならではの様子がよくみられたように思います。

・親子クラスでは、季節の手仕事などを中心に、お母さんたち自身がやりたいことを提案しながら進めていってもらいました。毎週活動の終わりには当番のお母さんが絵本を読んでいくなどしており、参加者主体の形となり、積極的に必要な物を持ち寄りながら明るい雰囲気の中で活動することができました。

○今後の課題

新年度の入園児は3名であるが、全員兄弟関係である。新規の入園者を増やしていくために、体験型のイベントを行ったり、SNSなどで活動を発信していきながら、丹波周辺への認知を広めていく必要がある。

里山ようちえんふえっこ 里山食育体験

< 特定非営利活動人 丹のたね >

目的	<p>(事業の目的をわかりやすく記載してください)</p> <p>丹波地域は兵庫県の中でも自然豊かで特に黒豆や小豆などの代表特産物がある農業地域であるが、そうした地域特性を生かした育児における自然体験や、食育などの活動が少なく、丹波市山南町にある笛路地区で活動している里山ようちえんふえっこのニーズも年々高まってきている。</p> <p>しかし、自然豊かな農業地域の笛路地区であるが、高齢化が進み、昔ながらの自然体験・農業体験などを含んだ田舎体験を伝える世代が減少している。</p> <p>また、里山の住民を増やしていくだけでなく、関係人口を増やし里山地区の活性化を図る必要がある。</p> <p>そこで、里山ようちえんふえっこを通じて、地域住民と地域・都市部の田舎体験をしたい子育て世代の交流を図り、食育や自然体験が活発に行われるようする。</p> <p>また、今回も学校や、既存の教育期間では取り組みにくい自然教育をテーマとした課外授業を行う。</p>
内容	<p>(事業の内容(時、場所、協働の相手先、対象等)が把握できるよう、記載してください)</p> <p>里山ようちえんが拠点とする里山の竹岡農園敷地内において、農業体験に加え、里山の田舎でしか出来ない養鶏体験を加えて、年間を通して自然に触れる機会をつくった。</p> <p>春に届いた鶏のひよこたちの世話をしつつ、参加者と共にDIYで養鶏所、遊び場などを製作。普段ようちえんに参加している子どもや、竹岡農園のパーマカルチャーサロンに参加しているお子さんまで様々な層が参加し、野菜の餌集めから、鶏と園場を駆け回り、卵を産み始める秋頃まで飼育体験を楽しんだ。鶏がアローカナという希少品種だったこともあり、産み始めるのが11月ごろからになったが、新型コロナウイルスの感染対策をした上で、卵を収穫した。生卵をそのまま食べるのは、このご時世、食品衛生上の問題があると判断し、卵焼きなどにして食育体験を行った。</p> <p>同時に、黒豆を収穫し、屋外で茹でて食べるなどの体験も実施した。</p> <p>また、年明けの鶏解体は、子どもたちから可哀そうとの声が上がリ、解体を中止して、卵の収穫と冬野菜での調理体験となった。</p>
地域	<p>(事業を実施した地域を記載してください)</p> <p>丹波市山南町笛路地区</p>
事業の効果	<p>(事業実施によりもたらされた効果(地域の活性化、地域団体の基盤強化、地域づくり活動の気運の盛り上がり、ノウハウの蓄積等)について、数値を使うなどできるだけ具体的に記載してください)</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス発生により、地域住民を巻き込んだ事業の実施は困難だった。</p> <p>緊急事態宣言が解除されていた期間は都市部からの参加者も見られたが、大人数で密になることを恐れる住民もいたため、極力以前から関係性のある方々に参加を限るなど、広く公募を行うことも出来なかった。(延べ参加人数 予定220人 実績175人)</p> <p>それでも参画いただいた地域住民の協力もあり、イベントや企画自体は盛況に終えることができた。</p> <p>農業への理解がより一層深まるとともに、今年は鶏を飼育したことにより、子どもたちの生き物への関心が一気に高まっていることは、「小さいひよこから飼育しているので、成長の過程が見えてとても良かった」「一羽一羽の大きさ・色などが違うことでなんで違うのかを考えている様子が伺えた」という意見があるなど、感想用紙などでも確認している。</p> <p>コロナ禍においても、屋外企画で密を避けるなど、数々の工夫をして乗り越えられたことは現場スタッフの自信にも繋がった。</p>

事業経過	(月日記入欄)	(事業の準備段階から実施段階、検証段階等の経過について記載してください)
	5月17日	打ち合わせ。特にコロナ禍における対応など(8人)
	5月31日	事業変更届け内容についての打ち合わせ(6人)
	6月6日	ひよこを広場に解放し、子どもたちとかけっこ、及び黒豆植え付け体験(15人)
	6月27, 28日	敷地の整備と、材料をそろえる。板を切り、塗料を塗る(5人、4人)
	7月4, 5日	ポリカーボネートで屋根づくり。柵を作って、完成(7人、7人)
	8月1日	振り返り。鶏を飼育することで子どもたちにどのような変化があったかを確認した。(5人)
	9月17日	養鶏所の掃除。散歩、エサやり。抱っこ体験。(14人)
	10月25日	秋の食育体験。黒豆、野菜の収穫、畑遊び。(36人)
	11月20日	卵の収穫体験。野菜を収穫して、調理体験。(18人)
	12月12日	秋の収穫・餅つき 食育体験(36人)
	1月14日	卵の収穫体験。卵焼きなど調理体験(12人)
	1月30日	反省会(8人)

協働先	(事業実施に際しての協働の相手先と協働の働きかけ、内容等を記載してください)
	<p>(株)カネニ住建：同社の大工さんとは、子どもの遊ぶフィールドにおける養鶏所の設置という点で色々なアイデアを出していただき、一緒に子どもたちと交流しながら創作できた。</p> <p>合同会社丹波笛路村：地域住民との交流を計画していたが、コロナ禍によりそれは叶わなかった。</p> <p>竹岡農園：来場客を当該行事に案内することで、ようちえんのフィールドで鶏と触れ合ったり、卵を収穫体験をしている様子が伺えた。</p>
今後の展望	<p>(事業実績に関する全般的な評価及び事業実施にあたって効果をあげるため役立ったこと(ノウハウ)、反省材料、今後工夫すべきこと等について、詳細に記載してください)</p> <p>(また、当該事業の今後のあり方(継続実施する、拡充実施する等)について、その内容も含めて記載してください)</p> <p>これまで野菜畑や水田などで、農作物とのふれあうことを中心に食育事業を行ってきたが、今年度は、鶏の飼育をしたことで、保護者からは「卵の収穫時、産んですぐの卵が生暖かいことに子どもがびっくりしていた」など温度や質感で生き物を感じる機会が増えたことを喜ぶ声や、スタッフからは「鶏が居て卵を産んでいることで生きた食育の経験をさせてあげることが出来る」など、子供たちの感性の幅が広がったという、保護者・現場スタッフの声が多く聞かれている。</p> <p>土に触れること、水を使うこと、野菜や作物を育て、それを味わうことから命の大切さは感じられるが、動いている生きものは、より一層子どもの世界にリアリティを産むようである。</p> <p>今後の展開としては、鶏に限らず、ヤギや魚など幅広い飼育体験を取り入れていこうと考えている。ただでさえ、広場の虫などを捕まえて喜んでいる子どもたちが、自分たちで育て守り、そして味わう経験を定着させていくことで、様々な刺激を受けて、脳の発達や感情の発達に繋がっていくと考える。</p> <p>今後の展望としては、現在里山ようちえんとして幼児教育に自然体験を取り入れる事業を柱にしているが、幼児以上の小学生や中学生など心身の発達が著しい時期の子どもたちにも自然体験を広く行って頂けるようなフィールド作り、運営体制、企画を作っていきたい。</p> <p>具体的には、現在、京都大学、大阪大学などの学生たちがインターン生として受け入れているので、彼らの中からリーダーを育て、学校と並行して自然体験が行えるセカンドプレイスとしての学童事業などへ繋げていけたらと考えている。</p>

特定非営利活動法人 丹のたね

活動計算書

令和2年4月1日から令和3年03月31日まで

(単位：円)

科目		金額	
I. 経常収益			
1. 受取会費		4,490,500	
2. 受取助成金等		1,237,750	
3. 事業収益		21,900	
4. 受取利息	16		
5. 雑収益	76,721		
6. その他収益		76,737	
	経常収益計		5,826,887
II. 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	2,221,960		
臨時雇賃金	635,500		
法定福利費	135,967		
	人件費計	2,993,427	
(2) その他経費			
車両費	353,197		
事務用品費	118,746		
支払保険料	127,770		
食材費	160,465		
消耗品費	171,680		
賃借料	709,250		
施設維持費	201,631		
雑費	776,563		
	その他経費計	2,619,302	
	事業費計	5,612,729	
2. 管理費			
支払報酬料	170,000		
減価償却費	168,744		
雑費	335,200		
	管理費計	673,944	
	経常費用計		6,286,673
	当期経常増減額		▲ 459,786
III. 経常外収益			
	経常外収益計		—
IV. 経常外費用			
	経常外費用計		—
	税引前当期正味財産増減額		▲ 459,786
	法人税、住民税及び事業税		—
	当期正味財産増減額		▲ 459,786
	前期繰越正味財産額		▲ 993,470
	次期繰越正味財産額		▲ 1,453,256

特定非営利活動法人 丹のたね

貸借対照表

令和3年03月31日現在

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	703,858		
積立金	6,000		
短期貸付金	1,000,000		
流動資産合計		1,709,858	
2. 固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備	1,181,256		
有形固定資産計	1,181,256		
固定資産合計		1,181,256	
資産合計			2,891,114
II. 負債の部			
1. 流動負債			
1年以内返済長期借入金	797,000		
未払費用	145,539		
未払金	46,831		
流動負債合計		989,370	
2. 固定負債			
長期借入金	3,355,000		
固定負債合計		3,355,000	
負債合計			4,344,370
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		▲ 993,470	
当期正味財産増減額		▲ 459,786	
正味財産合計			▲ 1,453,256
負債・正味財産合計			2,891,114

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法 有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
 (2) 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

2. 事業費の内訳

事業費は特定非営利活動に係る事業のみであり、その他の事業はありません。
 特定非営利活動に係る事業は保有事業のみであるため、事業ごとの区分はありません。

3. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物附属設備	1,350,000	—	—	1,350,000	168,744	1,181,256
合計	1,350,000	—	—	1,350,000	168,744	1,181,256

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
借入金	4,891,000	—	739,000	4,152,000

4. 役員及びその近親者との取引の内訳

(単位：円)

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人との取引
(活動計算書)			
給与手当(事業費)	2,221,960	—	1,040,000
賃借料(事業費)	709,250	—	700,000
活動計算書計	2,931,210	—	1,740,000
(貸借対照表)			
短期貸付金	1,000,000	—	1,000,000
貸借対照表計	1,000,000	—	1,000,000

特定非営利活動法人 丹のたね

財産目録

令和3年03月31日現在

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金	50,727		
ゆうちょ銀行	12,733		
丹波ひかみ農業協同組合	580,398		
中兵庫信用金庫	60,000		
積立金	6,000		
短期貸付金	1,000,000		
流動資産合計		1,709,858	
2. 固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備			
日除け設備	1,181,256		
有形固定資産計	1,181,256		
固定資産合計		1,181,256	
資産合計			2,891,114
II. 負債の部			
1. 流動負債			
1年以内返済長期借入金			
日本政策金融公庫	797,000		
未払費用			
3月分給与	145,539		
未払金	46,831		
流動負債合計		989,370	
2. 固定負債			
長期借入金			
日本政策金融公庫	3,355,000		
固定負債合計		3,355,000	
負債合計			4,344,370
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		▲ 993,470	
当期正味財産増減額		▲ 459,786	
正味財産合計			▲ 1,453,256
負債・正味財産合計			2,891,114